

カナダ トレント大学での経験

派遣期間: 2012.10.06~2012.12.08
派遣国名:カナダ 受入機関: トレント大学

2012年10月からの2ヶ月間、カナダのトレント大学に滞在しました。トロント大学とよく勘違いされますが、別の大学です。トレント大学は、トロントの程近く、ピーターボロー市に本拠地を置く公立大学です。学生数や学部数といった観点からは、カナダの中でも規模の小さい大学に位置づけられるそうです。しかしながら、広大な土地を有し、学内には大きな川が流れ、最新の運動施設も完備されているなど、非常に恵まれた環境の大学という印象を受けました。



滞在期間中、最も興味深かったのは、卒・修論の進捗状況に関する研究室ミーティングです。年度初回の研究室ミーティングでは、卒・修論を通して習得を期待する知識や概念について研究室の先生から説明があります。私の受入研究者だった先生の場合、卒・修論は以下の3つの目的のために行うとしていました。

1. 問題解決のための仮説設定をできる。
2. 仮説を証明するための方法を論理的に構築できる（ロジカル・シンキング）
3. 研究中に発生する予期しない問題を柔軟な発想で解決できる（ラテラル・シンキング）

以降のミーティングでは、研究室に所属する学生の方々が、3つある目的のいずれか1つだけに注目して進捗状況を報告します。例えば、2回目のミーティングでは、学生の方が、問題の提起から仮説の設定までの話に重点を置いて研究報告を行っていました。帰国したため、見学できませんでしたが、以降のゼミでは、目的2に対応した、方法論についての発表を行なうそうです。こうすることで、卒・修論の目的や論点が明確になり、卒・修論に取り組みやすくなると感じました。

また、研究室ミーティングに限らず、公の会議や発表会の雰囲気がとてもアットホームな事も印象的でした。研究室ミーティングは、皆でピザやマフィンを食べながら話し合います。また、別の会議や打ち合わせ、シンポジウムの際にも、ケーキとコーヒーなどが出てきました。おやつを食べながら、色々な立場の人が、別け隔てなく意見の交換を行うことで、より闊達な意見交換ができるのだと思いました。

今回、日本を離れ、異なる環境に身をおくことで、研究だけでなく、多くのことを学ぶことが出来ました。学んだこと、経験したことを活かせるよう、努力したいと思います。最後になりましたが、貴重な機会を与えて下さった、本派遣プログラム、および関係者のみなさまに心より御礼申し上げます。

